

田んぼダムだより

～第3号～

収穫の秋到来。稲刈りなどで忙しくされていることかと思えます。

農家の皆さまにご協力いただいている「田んぼダム」については、「緑の流域治水」の一環として着実に前に進んでおります。取り組みを開始して半年が経過しましたので現状や進捗状況についてお知らせさせていただきます。

引き続き皆さまのご理解とご協力をよろしく申し上げます。

<<これまでの動き>>

- ・3月末～4月中旬…モデル地区における地元説明会（モデル地区決定）
- ・4月中旬～5月末…障がい者支援施設によるせき板製作
- ・5月22日…せき板設置式、せき板コンテスト（田んぼの学校inひとよし）※蒲島知事参加
- ・6月4日…第1回田んぼダム効果等検証委員会・現地視察（あさぎり町他）
- ・6月上旬～下旬…せき板配布、スマート田んぼダム自動給排水栓設置完了
- ・6月～10月…田んぼダム貯留効果等の観測
- ・9月24日…田んぼの学校inひとよし（田んぼダム出前講座）
- ・10月12日…第2回田んぼダム効果等検証委員会



◆田んぼダム効果等検証委員会を開催しました！

田んぼダムの効果や普及・啓発手法、作物等に与える影響などを検証する「人吉・球磨地域田んぼダム効果等検証委員会」を設置しました。

この委員会は、学識経験者（大学教授）や農業関係者、施設管理者、報道関係者など6名で構成され、6月4日に第1回、10月12日に第2回を開催しました。

委員会では、それぞれの専門的立場から客観的な評価や提言をいただくこととしています。



◆「スマート田んぼダム」の取り組みがスタート！

通常のせき板による田んぼダムとは別に、湯前町の約10haの水田において「スマート田んぼダム」の取り組みを実施しています。

「スマート田んぼダム」とは、スマートフォンで遠隔操作が可能な自動給排水栓（ICT機器）により、大雨予報時に事前に一斉落水することで、田んぼダムの効果をより高める取り組みです。

また、通常の水管理を遠隔で操作したり、水位や水温もスマートフォンで確認することができるため、水管理の省力化を図ることができます。



◆実証実験から見てきた効果と課題！

田んぼダムは、熊本県で初めての取り組みのため、来年度までの2カ年、実証実験事業で様々な効果や課題を検証することとしています。

途中段階ではありますが、現時点で次のような効果と課題が見えてきました。

【効果】

- ・地元、学校、福祉施設など様々な方々と連携して流域全体で田んぼダムに取り組むことで、関連報道も増え認知度が向上。
- ・8月の降雨時には、スマート田んぼダムの実証エリア(10ha)において、一斉落水と一斉貯留の実験を行い、約8,000トン(25mプール16杯分)の貯留が確認できた。



片側の壁が破損した排水柵

【課題への対応】

- ・田んぼダムに対応できる「熊本型排水柵」の開発検討に着手。
- ・様々なイベント(田んぼの学校など)と連携し、非農家の方も含めた県民参加型の取り組みとなるよう推進。
- ・「田んぼダムだより」や様々な広報媒体を活用して、田んぼダムを積極的にPRすることで、更なる理解促進を図る。



【課題】

- ・整備から年数を経過した水田では、畦畔が低くなっており、高い貯留効果が見込めない。
- ・排水柵の老朽化でせき板が設置できなかったり、さまざまな種類・サイズの排水柵が設置されていることで構造に応じたせき板の準備が必要。
- ・排水柵の課題もあり、せき板の設置率が想定より低い。



田んぼの学校inひとよしでの出前講座

◆今後のスケジュール(予定)

- ・10月~2月...データの集計・分析
- ・2月...第3回田んぼダム効果等検証委員会

